

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会(第2回)

8月28日(金)午後7時～午後8時10分 小野上公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	今回の説明会で提示いただいた「素案」は、市の職員全員が賛成したのでしょうか。 規模が小さくなっている学校は、このままでもいずれ廃校になりますが、児童生徒が最後の1人になるまで、地域に学校を残しても良いと思います。そのような意見を持った方はいなかったのでしょうか。	今回の説明会でお示した「素案」は、教育委員会以外の市の部局や外部の検討委員会との議論の中で整理したものであり、「説明会等の場で関係者の皆さんと意見交換をするための材料としてお示しする案」ということに関しては、市の内部でも統一の理解がされているものになります。 学校の適正規模・適正配置を検討する上では、生活環境や立場などによって、色々な思いや考えを持った方がいます。その方々のご意見を伺うためのたたき台としてお示したものが今回の「素案」です。 「最後の1人まで学校を維持してほしい」というご意見は、これまでにはありませんでしたが、「地域に学校を残してほしい」というご意見は、これまでもございました。別の意見では、「一刻も早く統廃合を進めてほしい」というものもあります。 今年度中に策定を予定している「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の検討に当たりましては、関係者の皆さんからの様々なご意見を伺いながら、「教育のこと」「まちづくりのこと」「行政運営のこと」のバランスをとりながら、子どもたちが望ましい環境で学び続けることができるよう、学校の適正規模・適正配置を進める必要があると考えています。
2	学校の統廃合によって、地域から学校がなくなることが心配だという意見を聞きます。その気持ちはよく分かります。しかし、今の学校の状況は、児童生徒が少ない、1対1に近い状況で授業が行われているなど、人間形成の場として、子どものために何が良いかを考えると統廃合もやむを得ないと思います。むしろもっと早く統廃合してほしいです。	現時点では、市内全ての学校を義務教育学校にする考えはありません。他自治体では、全ての学校を義務教育学校にするところや一部が義務教育学校であるところがございます。 義務教育学校については、中1ギャップへの対応や特色ある教育の実施、教職員の意識向上など、様々なメリットがあると言われており、適正規模・適正配置を考えていく中で、検討していく必要があると考えています。また、校舎の建て替えにおけるコスト面の有利性も想定されます。 ただし、基本的には適正規模の推進が前提となるため、適正規模化を伴わない状態での義務教育学校の導入は検討しないこととしています(「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」30ページ「◆小中一貫校(義務教育学校)の検討について」)。
3	適正規模・適正配置を検討するに当たり、市内全ての学校を義務教育学校にする考えはありますか。 もし、それが実現すれば、小中学生と一緒に通学バスを利用できるという利点もあると思います。 また、老朽化した校舎を建て直すのであれば、小学校と中学校の2校を建て替えるのではなく、義務教育学校を1校新設することで経費を抑えることができると思います。	現時点では、市内全ての学校を義務教育学校にする考えはありません。他自治体では、全ての学校を義務教育学校にするところや一部が義務教育学校であるところがございます。 義務教育学校については、中1ギャップへの対応や特色ある教育の実施、教職員の意識向上など、様々なメリットがあると言われており、適正規模・適正配置を考えていく中で、検討していく必要があると考えています。また、校舎の建て替えにおけるコスト面の有利性も想定されます。 ただし、基本的には適正規模の推進が前提となるため、適正規模化を伴わない状態での義務教育学校の導入は検討しないこととしています(「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」30ページ「◆小中一貫校(義務教育学校)の検討について」)。
4	適正配置後は、市内の学校数が減ることで通学バスを利用する児童生徒が増えると思います。熊などの獣の出没が増えていることもあるので、安全な通学を確保するためにも通学バス利用の基準の見直しが必要ではないでしょうか。 「適正配置後は通学バスの利用基準が緩和等され、きめ細かく通学を支援する」「渋川市独自の取組で、バスに乗り遅れた場合の追加運行がある」というようなメリットがあれば、仕方なく統廃合するということではなく、皆さん喜ばれると思います。	通学バスについては、現行制度では、「通学距離が2.5キロメートル以上ある」等の条件に当てはまる児童生徒が利用しています。 今回検討している適正配置により、従前は徒歩で通学していた児童生徒が、通学バスで通学するケースが増えるため、学校の適正規模・適正配置を進める中では、地域やエリアの特性に合わせた通学方法等の検討が必要です。 再配置後の通学バスルートの検討や利用基準につきまして、学校の適正規模・適正配置の進捗に合わせて検討を進めます。
5	学校の適正規模・適正配置を進めるに当たっては、十分な合意形成を図ってください。	No.1と同様
6	統合には賛成です。むしろもっと早く進めてください。	